

「生涯活躍のまち・おんじゅく」構想 【概要版】

テーマ おんじゅくまるごと生涯活躍・安心のまち

コンセプト 町内に住む元気な高齢者やケアを要する高齢者を主な対象者とし、誰もがいつまでも安心していきいきと暮らせるまちづくりを目指す

基本方針

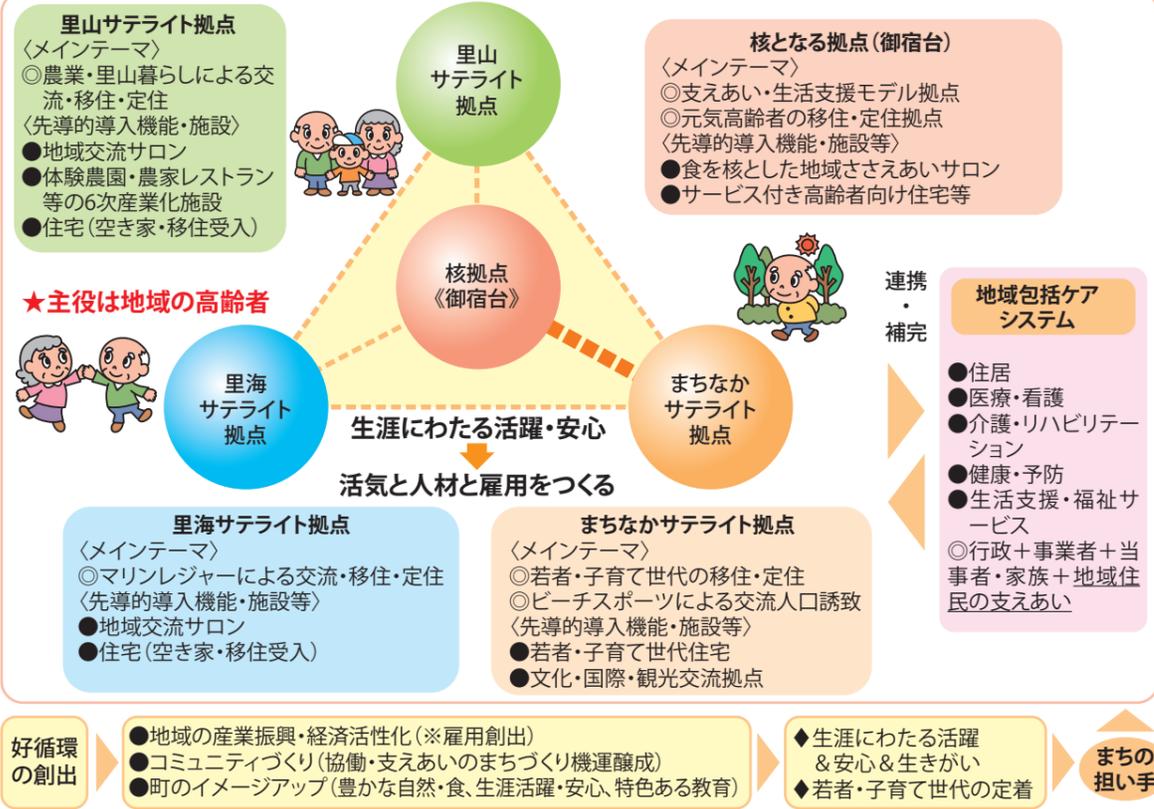
- ①まち全体が活躍の場
- ②地域包括ケアシステムとの連携(生涯にわたる安心安全と健康づくり)
- ③地域資源の活用(まちの宝をフル活用)

ライフスタイル・イメージ

- 元気な高齢者が、仕事や趣味、地域活動、生涯学習、大学の公開講座・イベントなどへの参加をとおして、いきいきと活躍し、新たな能力開発や自分磨きに取り組んでいる。
- 病気や介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で、継続した医療・介護サービスを受け、地域で支えあいながら安心して暮らしている。
- 生涯学習やアクティビティ等の活躍の場あるいは医療・介護等の継続ケア体制を支える若者や子育て世代が、豊かな自然の中で、地域ぐるみのサポートを受けながら子育てし、リフレッシュしながら働いている。
- 若者・中堅世代が、仕事や子育て、余暇活動、自分磨きなどに力を注ぎ、健康で充実した日々を送るとともに、生涯活躍のまちを支えている。
- 子どもたちが、豊かな自然の中で、高齢者ほか地域住民や大学生との交流・イベントなどをおして、豊かな心と健康、国際性、自然、科学、郷土の歴史・文化などへの興味や関心を育んでいる。※特色のある教育

ターゲット

メイン: 地域住民(地域の元気高齢者・ケアを要する高齢者)
サブ①: 生涯活躍のまち・同関連施設で働く若者・子育て世代
サブ②: 都市部の高齢者



導入機能・施設等

①居住 新設or空き家	○サービス付き高齢者向け住宅(★)
	○子育て世帯向け住宅
	○お試し・二地域居住向け住宅
②医療 介護	○在宅医療支援(施設・体制)(★)
	○回復期リハビリテーション
	○健康増進・フィットネス
	○在宅介護支援(★)
	○施設介護支援
③活躍の場・機会	○生涯学習(学ぶ側・教える側)
	○アクティビティ(含:健康増進)
	○大学連携による人材育成・まちづくり
	○支えあい・多世代交流の場・機会・拠点
	○観光・交流の場・機会
④生活支援	○高齢者生活支援(★)
	○就労支援
	○まちづくり・コミュニティ参加支援
	○地域住民支えあい・見守り活動支援
	○地域内移動支援(公共交通補完)
	○移住・住み替え支援(情報提供・相談等)
⑤まちの運営 (持続的な まちづくり)	○運営・推進主体組成(民間/NPO等)
	○まちの運営全般(上記組織が主体+町)
	施設管理、ソフトメニュー企画・実施支援、入居者募集、情報発信、各種コーディネート(対外窓口)、事業評価(PDCA)等

★: 地域包括ケアシステムの要素

スケジュール

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度以降
「生涯活躍のまち」構想の策定					
地域再生計画の策定(事業を行う対象区域や計画期間、計画を通じた目標などを設定)					
「生涯活躍のまち」構想の詳細検討(仮) ※構想で検討した導入機能・施設等の具体的な内容や事業性などの検討。					
事業主体の選定・事業計画作成 ※「生涯活躍のまち」事業の運営・推進を担う事業主体の選定、「生涯活躍のまち形成事業計画」の作成					
募集に係る仕様(事業範囲)の検討					
公募・選定手続き					
「生涯活躍のまち形成事業計画」の作成					
高齢者の住宅・地域交流拠点の整備					
建設場所の選定					
行政との調整(用途地域等)					
規模・機能等の検討					
工事計画の作成					
施工業者の公募・選定手続き					
施工					
入居者募集・入居					
情報発信					
入居希望者に対する事前相談					
お試し居住・二地域居住					
入居開始					

核となる拠点の先導的導入機能・施設例

食の提供を核とした地域ささえあいサロンの整備	
機能・運営	概要
サロン	○地域住民が気軽に集い交流できる場。地域の高齢者、特に独居高齢者等の外出のための場と機会を創出する。 ○食事や飲み話のほか、気軽に楽しめるゲームやイベントあるいは健康体操などを行う。お茶やコーヒー、食事は有料。
食の提供	○御宿町の新鮮な農産物を活用した日常の食事をリーズナブルな価格で提供する。一般メニューに加え、健康や栄養に配慮した食事も提供し、食を通じた健康増進支援も行う。共通ポイントは、素朴ながらも地元食材を使用した御宿ならではのメニューとする。 ○対象は、サロンに訪れる地域住民(元気な高齢者・ケアを要する高齢者・その他多世代)とする。 ○施設での提供以外に、町内の独居高齢者や要支援高齢者等を対象に配食サービスも行う。
健康・介護相談	○毎日、健康体操やストレッチ、血圧測定ができる。 ○定期的に健康相談を行う。 ○自身あるいは親・兄弟姉妹の介護に関する相談も行う。
多世代交流	○子どもが、高齢者と一緒に創作活動を行ったり、あるいは地域住民が先生となって勉強を教えるなど、放課後児童クラブとしての機能も担う。 ○子育て世代の親子も気軽に訪れ、高齢者に子どもの面倒を見てもらう間に、趣味や自己研鑽などを行うこともできる場とする。
運営	○地域住民の関与度が高い民間組織が望まれることから、やる気のある住民等で新たに法人格を有するNPO法人等を設立する。 ○スタッフは、地域住民がボランティア(有償・無償)として参加する。地域住民はサロンの利用者と運営スタッフの両面で活躍する。 ○保健福祉や地域包括ケアシステムに関わる活動が多いことから、健康・介護相談会への専門家派遣等の人的支援、並びに情報提供や各種調整等について、行政も側面支援を行う。
資金	○サロン利用者の利用料・食費代。 ○サロンの運営を支援する町民からの寄付(継続的な支援を希望する者から定期的な寄付を受ける)。 ○国や行政、民間企業・組織等の様々な助成制度を活用する。

構想推進の効果

本構想を推進することで以下の効果を狙うこととする。なお、この目標は、PDCAサイクルを回すための指標でもあり、また、PDCAを回した結果により、適宜見直すこととする。

目標内容	H29年度末(基準)	H30年度末	H31年度末(中間)	H32年度末	H33年度末(最終)
目標1 移住相談者の数	10人	20人	30人	40人	50人
目標2 移住を目的とした各種イベントへの都市住民の参加者数	10人	20人	30人	40人	50人
目標3 生涯学習への参加者数(生涯活躍のまちで実施するメニューへの参加者、純増)	50人	50人	70人	70人	100人
目標4 大学との連携による講座やイベントの数、同参加者数	3回 50人	4回 100人	5回 120人	5回 150人	6回 200人
目標5 二地域居住者の数(純増数) 移住者の数	0人 0人	5人 0人	10人 0人	15人 5人	20人 10人
目標6 生涯活躍のまちでの暮らしの満足度(大変満足比率)	-	-	30%	35%	40%